

研究結果報告書

金融危機後の東アジア金融規制監督体制改革と日本の経験

米国発の金融危機が世界中に拡散し、アジア各国にも多大な影響を与えているが、各国が市場の質と機能を決定づけるような金融資本市場関連法規制システムを持つことができるかが、その国と地域の市場の質と機能を決定づけるとも考えられる。中日両国としては、巨大な外貨準備と巨額の貯蓄を同じアジア域内で効果的に循環させるための仕組みの構築が極めて重要であるが、その実現のためには、国内の金融規制監督の強化・適正化と共に、アジア域内資本市場のルールと取引慣行を形成・構築する必要がある。

本研究では、東アジアにおける金融システム・リスクの根源及び特徴について分析し、今後東アジアの金融規制・監督・自主規制体制に必要な改革に関して研究した。

研究全体として、具体的に、次の目標を達成することができた：まず、東アジア経済における金融関連リスクの発生、累積及び波及メカニズムの一致性について解明した。そして、日本の経験を踏まえ、欧米諸国と異なる東アジア独自の金融規制・監督・自主規制の必要性と現状を明らかにした。さらに、上述の分析に基づき、アジア域内の金融協力の現状と日本の役割を整理し、東アジア域内各国とクロスボーダーの金融規制・監督改革と自主規制のあり方の方向を展望した。

研究期間内、いくつかの関連論文を発表し、国内外の研究会において関連内容の口頭発表も実現できた。最後に、最も重要なのは、本研究をきっかけとして、日本の研究機関・金融当局・自主規制団体等との交流のアルゼンチンなども織り込みつつ、相互に有益で、かつ東アジアの金融資本市場に発展に寄与するような研究活動をやってきた。今後も継続していきたいと考えている。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

会議名	発表者および題名	日時と場所	主催
アジア金融・資本市場の法整備に関する国際研究会	宣曉影 「中国銀行業の規制監督について」	2011年4月30日 9:00-17:00 翠宮飯店	中国国務院発展研究センターアジア・アフリカ発展研究所、早稲田大学法学学術総合研究所、東京証券取引所、東京ATM取引所
アジア債券市場の発展を推進する研究会	宣曉影 「アジア債券市場の育成における日本の役割」	2011年12月21日 9:30-16:30 徳宝飯店	中国財政部国際司

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

宣曉影：「日本の経済金融情勢」、『金融発展報告(2011)』(BLUE BOOK)、2011.3。

宣曉影：「日本の金利自由化および中国への示唆」、『当代金融家』、2011.6。

黄国平・宣曉影：「中国金融情報化建設の問題と対策」、『銀行家』、2011.12。

宣曉影・余维彬：「国際収支と外貨準備」、『金融発展報告(2012)』(BLUE BOOK)、2012.5。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)